



2017年度新卒視能訓練士就業状況 調査結果

目的：今後ますます増加する視能訓練士の就業状況を把握するために調査実施する。

対象：2016年4月現在日本全国に存在する視能訓練士養成施設29校（大学9校・短期大学1校・専門学校19校）に調査依頼。

調査協力施設 大学7校 短期大学1校 専門学校18校 計26校

施設区分	養成校区分 就職先区分	性別	養成校区分									合計 26校				前年28校との比較		区分比率	前年度比
			大学 7校			短期大学 1校			専門学校 18校			女性	男性	人数	比率%	増減数	比率%		
			女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計								
国立系医療機関	1. 国立高度専門医療センター(ナショナルセンター)		1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%	1	0.1%	9.4%	▲2.9%
	2. 国立大学法人		7	3	10	2	1	3	11	1	12	20	5	25	3.5%	▲1	0.1%		
	3. 独立行政法人国立病院機構		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	▲8	▲1.1%		
	4. 公立医療機関(都道府県市町村の病院及び診療所)		4	3	7	0	0	0	7	6	13	11	9	20	2.8%	▲8	▲0.9%		
	5. その他国立系の病院		0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0.1%	▲1	▲0.2%		
	6. 公立大学病院		1	0	1	0	0	0	3	2	5	4	2	6	0.8%	▲1	▲0.1%		
	7. 公立に準ずる病院及び診療所		5	1	6	1	0	1	6	1	7	12	2	14	2.0%	▲8	▲0.9%		
	①小計		18	7	25	3	1	4	28	10	38	49	18	67		▲26			
全体に占める割合		3.5%			0.6%			5.3%			6.9%	2.5%	9.4%		▲2.9%				
私立系医療機関	8. 私立大学病院		17	6	23	0	1	1	18	2	20	35	9	44	6.2%	▲1	0.2%	86.7%	2.0%
	9. 私立病院(他科もある病院の眼科)		24	15	39	3	1	4	53	11	64	80	27	107	15.0%	11	2.3%		
	10. 私立眼科病院		21	8	29	1	0	1	25	9	34	47	17	64	9.0%	7	1.5%		
	11. 眼科診療所(医療法人及び個人)		115	18	133	12	1	13	227	30	257	354	49	403	56.4%	▲39	▲2.1%		
	12. レーシックセンター(レーシックを主にしている眼科診療所)		0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0.1%	1	0.1%		
	②小計		177	47	224	17	3	20	323	52	375	517	102	619		▲21			
	全体に占める割合		31.4%			2.8%			52.5%			72.4%	14.3%	86.7%		2.0%			
その他	13. 視能訓練士の学校または養成所		1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1%	0	0.0%	3.9%	0.9%
	14. 大学院		1	4	5	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0.7%	3	0.4%		
	15. 福祉関係		0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0.1%	1	0.1%		
	16. 病院・医院以外の医療関係企業		0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0.3%	▲2	▲0.2%		
	17. 医療関係以外の職業		3	3	6	0	0	0	2	0	2	5	3	8	1.1%	4	0.6%		
	18. 就職せず		10	0	10	0	0	0	0	1	1	10	1	11	1.5%	▲1	▲0.1%		
	19. 他大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%		
	20. 他専門学校		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.0%		
	③小計		15	8	23	0	0	0	3	2	5	18	10	28		5			
	全体に占める割合		3.2%			0.0%			0.7%			2.5%	1.4%	3.9%		0.9%			
合計(①+②+③)			210	62	272	20	4	24	354	64	418	584	130	714	100.0%	▲42			

小数点第2位四捨五入
2017年10月現在
視能訓練士需給計画委員会実施

今回の調査結果について

1. 新卒視能訓練士数

新卒視能訓練士数（国家試験合格者数）は2012年度544名、2013年度は731名、2014年度は755名、2015年度は786名と年々増加していましたが、2016年度は768名（2017年3月卒業生）で前年度より18名減少しました。

第47回視能訓練士国家試験合格者を輩出した全国の視能訓練士養成施設数は28校と前年度と同じでしたが、国家試験受験者数は前回に比べ8名減であったこと、また、新卒合格率は98%の前回に比べ1.3ポイント減の96.7%であったことが要因であると考えられました。

2017年度は、卒業生を輩出する養成施設が2校増えるため新卒者数は増加することが予想されます。

2. アンケート回収率

第47回視能訓練士国家試験合格者を輩出した全国の視能訓練士養成施設は28校（大学8校・短期大学1校・専門学校19校）にアンケートを送付しました。アンケートを回収できたのは26校（大学7校・短期大学1校・専門学校18校）で回収率は92.9%でした。その結果、国家試験合格者768名に対し今回のデータは714名（女性584名、男性130名）となりました。前年度のアンケートは756名（女性616名、男性140名）で42名減となったことから、就職先区分の人数は減少している項目が多くなりました。そのため今回の表には前年度比を追加しました。

3. 就職先

就職先区分では、「11. 眼科診療所（医療法人及び個人）」への就職は2011年度331名（52.1%）と過半数を超え、2012年度284名（51.7%）、2013年度364名（53.4%）、2014年度427名（58.5%）、2015年度は442名（59.3%）と年々増加し、2016年度は403名（56.4%）と2.1ポイント減少したものの過去と同様に最多を示しました。2016年度、目立った変化は「9. 私立病院（他科もある病院の眼科）」が2.3ポイント増、「10. 私立眼科病院」が1.5ポイント増で、「私立系医療機関」全体では2.0ポイント増加していました。また、「その他」とした医療系機関以外の項目も0.9ポイント増でした。反対に、「3. 独立行政法人国立病院機構」、「4. 公立医療機関」、「7. 公立に準ずる病院及び診療所」が0.9～1.1ポイント減少していました。「国公立系医療機関」全体では2.9ポイント減少を示し、これらの施設においては定員が充足しているか離職が減少していることが考えられました。これらの傾向は昨年と同様の傾向でした。

4. 就職意識

「国公立系医療機関」からの求人が減少したことで、「私立系医療機関」が2.0ポイント増加と民間施設に就職先が移行したと考えられました。「その他」とした就職先区分の13～20の結果からは、「14. 大学院進学」は大学からの進学のみでした。「17. 医療関係以外の職業」は、専門学校の卒業は2名、大学卒業は6名、「18. 就職せず」は、専門学校の卒業の1名を除き10名が大学の卒業生でした。その他の合計は28名であり、その多くは大学を卒業した学生でした。「14. 大学院」進学した人を除き、国家資格は取ったものの医療機関において視能訓練士として働かない人が大学の卒業生に多い傾向が認められました。

昨年の調査から男女別での検討も試みています。こちらは昨年と大きな変化は認められませんでした。男女で差が開いているのは、「11. 眼科診療所（医療法人及び個人）」で女性に多く昨年と同様でした。以前から問題視している「13. 就職せず」の多くは大学卒の女性です。こちらは年々減少しており喜ばしいことです。

以上、今回の調査結果は、昨年と同様の傾向を示し、「国公立系医療機関」は年々減少し、「私立系医療機関」に就職先が移行していることが今回の調査からも判明しました。「国公立系医療機関」への就職が減少していることは、就職先がないという誤った情報となり、視能訓練士を目指す学生が減少することが危惧されます。一方、個人クリニックからの需要に新卒視能訓練士数が少ないため応えることが難しい状態が続いておりましたが、今後は解消していくと考えられます。そしてそれは、視能訓練士の知名度の向上や地位向上等、視能訓練士の発展に繋がっていくと考えられ、新卒視能訓練士の方は視能訓練士発展のために貢献していただきたいと思います。国家試験合格おめでとうございます。

需給委員会では今後も調査を続け、更なる視能訓練士の需要拡大を目指していきます。
今後とも、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

視能訓練士需給計画委員会